

日本小児科学会子どもの死亡登録・検証委員会

厚労科研「小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性の検証に関する研究」共催

## 第1回小児死亡時対応講習会開催報告

開催日時：2018年3月3日（土）10：25～17：30

開催場所：フクラシア品川（高輪口）東京都港区高輪3-25-33-6F

参加費：5,000円

参加者数：81名

日本小児科学会 子どもの死亡登録・検証委員会は、Child Death Reviewの実装が進むために小児科医の積極的な関与が必要と考えている。よって、それを支援する一環として死亡時対応講習会を企画した。

小児の死亡時の対応は各地域、各病院によってまちまちである。そのため、全国的な動向等を明らかにして今後の行動計画を立案するための基礎資料を作成するにしても、直接的な比較検討が困難である。またさらに問題となりうるのは、施設によっては死因究明のための検索が不十分に終わってしまうこともあり、これは統計上の問題だけでなく、患者にとって不利益となってしまう場合もある。

これらを踏まえながら、小児の死亡時対応において根幹をなす部分のうち「死因究明」「グリーフケア」を重点的に学ぶ機会を提供した。この講習会の最後には、将来、わが国でChild Death Reviewを確立するための第一歩である「小児死亡事例に関する登録・検証システム」の研究への参加方法・登録方法をレクチャーした。今回講習会のプログラム内容は以下の通りである。

### 【プログラム】

1. 我が国の小児死亡の現状 前橋赤十字病院 溝口史剛
2. 身体所見の取り方と提出すべき検査 横浜労災病院 佐藤厚夫
3. 死亡に際しての家族対応 函館中央病院 石倉亜矢子
4. 死亡診断書の記載方法・司法との連携 東京大学・千葉大学法医学 千葉文子
5. グリーフケア 四国こどもとおとなの医療センター 木下あゆみ
6. 子どもの死亡登録検証について 名古屋大学医学部附属病院 沼口 敦

参加者は、30代～50代の病院勤務医の小児科医が多く、日々小児死亡事例に直面する方々が目的意識を持って参加されていた。また、今後CDRを局地的にはなく全国に広く実装されることを目指すべく、各地方会に依頼して参加者を選出していただいた。

講習会は、座学だけでなく、家族対応に関するディスカッションや、死亡診断書の記載方法の実習など、盛りだくさんの内容であった。特に法医学の立場からの講義は、小児科医にとって新鮮であり、好評を得た。

来年度以降も、この講習会を開催し、各地域・各病院におけるChild Death Review推進に役立てたいと考えている。

仙田昌義  
子どもの死亡登録・検証委員会